

インド人研究者の日本入国 VISA に関する現状
(高エネルギー加速器研究機構に関して)

1. 昨年度の状況

昨年4月に高エネルギー加速器研究機構(KEK)のBファクトリーを用いた国際共同利用実験であるBELLE実験に参加すべくVISAを申請した3名のインド人研究者(2名はTata Fundamental Research Institute, TIFR, の研究者および大学院生、1名はPunjab大学の研究者)のVISAが6月になって拒否され、その後、在留資格認定をとった後に再申請を行いました。再びVISAが拒否されております。また、昨年の10月には、総合研究大学院大学の国費留学生として、KEKにて加速器について勉学すべくVISAを申請したインド人研究者(Centre for Advanced Study, CAT所属)のVISAが拒否されました。これらの4名の研究者は、いずれも来日経験があり、それまでは、問題なくVISAを取得できております。また、昨年の12月から3ヶ月の滞在予定でKEKが機構招聘研究員として招聘したインド人研究者(Harris Chandra Institute)および2月から1ヶ月半の滞在予定で招聘したインド人研究者(Delhi大学)のVISAが申請後数ヶ月たっても発給されず、彼らは来日を断念せざるをえませんでした。さらに、2月に15日間の予定で、BELLE実験に参加すべくVISAを申請した2人のインド人大大学院生(Punjab大学所属)のVISAが拒否されました。

以上をまとめると、高エネルギー加速器研究機構に関して(総研大を含む)、昨年度に行われた27件のVISA申請のうち、拒否が6件、不発給が2件ということになります。

2. 今度におけるVISA状況の改善

今年4月以降これまでに、高エネルギー加速器研究機構に関して、12件のインド人研究者のVISA申請がありましたが、1件の拒否も起こっておりません。特に、注目すべきことは、1)BELLE実験に参加すべく長期滞在(6ヶ月)を申請したTIFRの研究者にVISAが発給されていること、2)昨年度VISAが拒否されたか、またはいつまでたってもVISAが発給されず来日を断念した3人の研究者に、今年はVISAが発給されていること、および、3)VISA取得にかかる日数が最短では3日までに短縮されたことです。このような状況からみて、高エネルギー加速器研究機構に関しては、インド人VISA問題は、ほぼ完全に解決をみたようです。詳しく記録を調べてみると、VISA状況は、3月末から改善されたことがわかります(3月末に3人のCATの研究者が1週間のVISAを申請したところ、3名ともに、1年間の多次VISAが発給され

ています)。

高エネルギー加速器研究機構以外においても、状況の改善があったことを聞いております。

3. 背景

私を得た、外務省筋からの情報では、省内において、3月にインド人研究者に対する VISA 発給基準の見直しを行ったということであり、その結果、1)NPT 非加盟国(インド、パキスタン、北朝鮮など)の研究者に対する VISA の発給については、国際的に認められた Guideline(London Guideline)に厳密に従うことにした(日本は、それまでは、この Guideline よりも厳しい条件を課してきた。)、2)かつては、インド人研究者がある特定の研究機関に所属するというだけで VISA を発給しないということがあったが、今後は、その研究者がどのような研究に従事するかを見極めた上で VISA 発給の可否を決める、ということになったそうです。

現在、日本政府は、インドとの友好関係を強めることに積極的であり、4月末の首相訪印の際の両首相の共同声明の中では、科学技術に関する日印協力を強化することがうたわれています。また、長年中断していた、政府間日印科学技術協力協議がこの秋から再開されることになりました。

4. その他

6月15日に日本物理学会が、外務大臣宛に、インド人 VISA 問題の解決を要請する手紙を送りました。また、IUPAP 議長から、インド人 VISA 問題の状況に関する問い合わせがあり、黒川が、IUPAP 議長の Yves Petroff 教授に、具体的なデータを示した上で、この問題は解決したむねの email を7月に送ってあります。

以上